

子どもの歌をめぐる

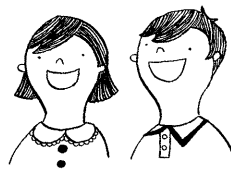
—「あいさつの歌」は今—

「しつけの歌」をご存知ですか

二〇〇八年の今、日本では世界中のさまざまな音楽文化に触れることができます。それ故、子どもたちがうたっている歌も、多岐にわたっています。

そのような状況の中で、幼稚園・保育所で子どもがうたう歌は、『保育唱歌』（一八七七／明治十年）～、『幼稚園唱歌集』（一八八七／明治二十年）の時代から、大人がうたう歌とは別の、子どものための歌が考えられてきました。それらは、日本の伝統音楽の流れを汲むわらべうたの類であったり、明治

角藤 智津子



時代以降に日本に入ってきた、世界のいろいろな地域の音楽手法による歌であったりします。

子どもの歌の中には、保育所や幼稚園でうたわれることのある、しつけにかかわる内容の歌があります。朝、昼食、帰りの際にうたうあいさつの歌や、片づけ、歯磨き、静かにするなどの内容の歌が、これにあたります。

私自身は、子どもたちには、音楽の美しさ、楽しさを味わってほしいと考えておりますので、

「○○をしましょう。××をしてはいけません」の内容で子どもの歌ができあがっていることには、

抵抗感をもっています。

「しつけの歌」は
うたわれなくなつたのでしょうか

一九九〇年代に、何人かの保育所の先生から、

「あいさつやしつけに関するいわゆる生活の歌は、
本当にうたわなくなりましたね」

という話を伺いました。あいさつやしつけに関する
歌は、本当にうたっていないのだろうか、どのよう
な状況にあるのだろうか、ということがこのころか
ら気になりました。

確かに、ある出版社の幼稚園教諭・保育士（保
母）の養成を目的とした音楽のテキストを見てみま
すと、一九八一年の版にはしつけの歌が九曲掲載さ
れています。それが、一九九〇年の版、二〇〇八年
の版には、一曲も載っていません。

一九八〇年代に、ある保育者養成の学校で音楽を

担当することになったとき、上司から、

「朝の歌と、お弁当と、帰りの歌さえ教えてもらえ
れば、あとは好きなものを教えていいですよ」

という話がありました。その先生は、あいさつの歌
は、とても大事なものと考えていたのです。

『おばけなんてないさ』や『カレーライスのうた』
でおなじみの作詞・作曲家の峯陽さんは、一九八〇
年代に、

「ところが実際保育園で昔からずつと行われている
ことは、おかたづけ歌、手を洗う歌、おはようの
歌、おやつ歌、食事の歌、さよならの歌……など
で、毎日、印をおしたように子ども達の要求や感動
などに関係なくうたわれています。」
と書かれています。

一九八〇年代は、しつけの歌にとって、転換期
だったのかもしれない。

「あいうの歌」の実態調査から

「しつけの歌」の存亡が気になっていた私は、「しつけの歌」の中の「あいうの歌」が、幼稚園・保育所の中で現在もうたわれているのかどうかについて、調べることにしました。研究グループで、朝、昼食、帰りのあいうの歌がどのくらいうたわれているのかの調査を行いました。

幼稚園は、平成十九年の調査です。何らかの「あいうの歌」を毎日の保育の中で、定期的に一曲以上うたっている幼稚園は八五・一パーセントでした。幼稚園では、昼食のあいうの歌が一番多くうたわれており、帰り、朝の歌がこれに続きました。

保育所は、平成十六年の調査です。何らかの「あいうの歌」を、毎日の保育の中で、定期的に一曲以上うたっている保育所は四一・一パーセントでした。保育所では、帰りのあいうの歌が一番多くう

たわれており、朝、昼食の歌がこれに続きました。おやつの時間がある保育所の特色として、幼稚園ではまったくうたわれていないおやつの歌が、一四・二パーセントの保育所でうたわれていました。

「あいうの歌」をうたっている理由としては、「園の伝統になっています。創立以来、うたい続けています。習慣になっています」

という答えが主でした。「なぜうたうのだろうということ、考えたことはありませんでした。回答する中で、初めてこれらの歌をうたう理由を考えてみました」

という答えもありました。また、「活動の明確な区切りとしてうたっています」という答えもありました。

メロディーが美しいなどの音楽的な価値を見いだして、歌っているというコメントはほとんどありませんでした。

「しつけの歌」の中の「あいさつの歌」は、二十一世紀初めの幼稚園・保育所においても、うたわれていることが明らかになりました。

もちろん、「あいさつの歌」を全くうたっていない幼稚園・保育所がたくさんあることも忘れてはなりません。うたわない理由としては、

「ほかによい曲はたくさんありますので、特定のものを習慣的に毎日うたう必要はないと思っております」

「以前はうたっていました、単に決まりごと・習慣でうたうことに必要性を感じないので、今はうたっていません」

という答えがありました。

音楽を愛する者ばかりの研究グループ構成員は、保育者は、「あいさつの歌」の音楽的な価値は見いだしていないという調査結果に、

「音楽的な価値を見いださないと、幼稚園・保育所

で子どもにうたわせているのは、くやしい」と、大激論になりました。

「理由はともあれ、たくさん幼稚園・保育所でこれらの歌がうたわれているという事実は、捨てておくことはできないのではないか」

「ピアノ伴奏の多くは、簡易なものとなっていて、I、IV、V度の和音しか用いていない。保育者は、伴奏を弾くことは簡単にできるが、音の響きとして物足りないと感じるのではないかと、いろいろな意見が出てきました。」

作曲が専門の研究グループの一人は、昼食時の歌に関して新たなピアノ伴奏を編曲しました。「…正当な和声法とポリフォニー書法に基づいた一件奏例⁶」であるということで、昼食時の歌のI、IV、V度の和音による伴奏しか知らなかった耳には、この編曲からこれまでにない音の響きを感じました。



「あいさつの歌」の明口

保育において、子どもたちとどんな歌をうたおうかと考えるときには、幼稚園・保育所の教育・保育方針を基に、子どもたちの発達や状態を考慮して、目的をもって選曲します。現在は、そうした結果、「あいさつの歌」が選ばれているのかもしれませんが、

ずいぶん前ですが、通勤の道の途中に幼稚園があり

ました。毎朝、朝のあいさつの歌をうたっていました。そのうたい方は、テンポがものすごく速いのです。ピアノの伴奏がこれ以上速くは弾けないというほどの速さなので、子どもたちの歌もそれに合わせ、早口言葉のようでした。

うたうことを選んだからには、うたい方も考慮していただけだと思います。

小学校一年生の一学期の体験です。朝の集まりの会するとき、『あいさつ』（小林純一作詞、信時潔作曲）をうたいました。最後の部分は、「ラッタラッタラーン」と右手を高くかざし、きらきらと揺らしながらスキップして一回転しました。とても楽しかったですし、その時間を待ち焦がれていたのですが、先生は、一学期だけで、それ以上は、続けられませんでした。今にして思えば、保育所・幼稚園と小学校のつながりをスムーズにし、児童がうまく小学校生活になじむようにするための、工夫であった

のではと想像します。幼稚園・保育所でうたっていることを踏まえた場合には、このような用い方もあるのだと思います。

また最近の経験です。男性保育者が、ギターをつま弾きながら、とっても優しい声で、『さよならのうた』（高すすむ作詞・渡辺茂作曲）をうたいました。子どもたちは、先生と一緒に、中くらいの大きさの声で、穏やかにうたいました。朝から保育に参加させていた私は、なぜかほっとした気持ちになつて、すてきな音楽だと感じました。このような保育実践を教えていただくと、「あいさつの歌」も、こんなふうにするにうたうことができるのだとわかります。

あいさつは、言葉にして表現することが第一です。熟考の末「あいさつの歌」が保育者を選ばれるならば、「あいさつの歌」はまだ明日があるかもしれません。

大事なことは、どの歌にせよ、保育者は、なぜ保育に用いるかをしっかりと考えて歌を選ぶことです。そして、音楽の美しさ、楽しさを子どもたちに伝え、子どもたちに感じてもらえればと思います。

（東洋大学 ライフデザイン学部 生活支援学科）

註

- 1 日本で最初の幼児用唱歌集です。一八七六年にできた日本で最初の幼稚園である、東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）附属幼稚園で用いるために、宮内庁式部寮雅楽課に依頼し、一八七七年から一八八三年にわたって創作された約百曲から成っています。出版はされませんでした。
- 2 文部省編纂の最初の幼児用唱歌集です。一八七九年にできた文部省音楽取調掛（現東京芸術大学）が、西洋の曲を含め二十九の唱歌を選んでいます。後に、別の編者による「幼稚園唱歌集」が出版されていますが、異なるものです。
- 3 峯陽「峯陽うたの本」3 すばらしい人生のうた」ばるん舎 五十一～五十二頁 一九八〇年代らしいが発行年の記載なし
- 4 角藤智津子・古川哲也・加藤明代・大輪公彦「保育所における『日の流れの歌』の現状と音楽保育教材としての今後の課題」明研図書 子どもの健康福祉研究 二十五～三十二頁 二〇〇六年
- 5 角藤智津子・古川哲也「幼稚園における『日の流れの歌』の現状―A県・B県における調査から」明研図書 子どもの健康福祉研究 一七頁 二〇〇八年
- 6 4に編曲が掲載されています。